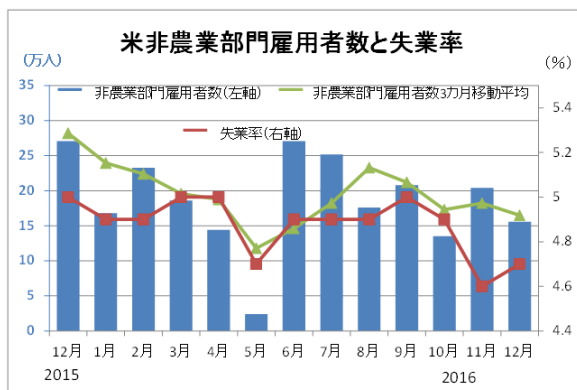


米12月雇用統計レビュー

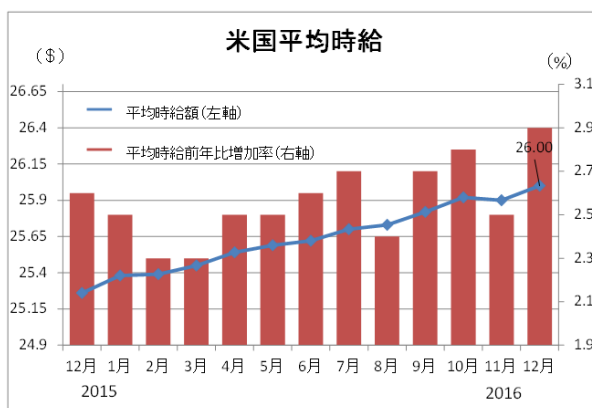
2016年1月6日に米労働省が発表した12月雇用統計の主な結果は、①非農業部門雇用者数15.6万人増、②失業率4.7%、③平均時給26.00ドル(前月比0.4%増、前年比2.9%増)という内容であった。

①12月の非農業部門雇用者数は、市場予想(17.5万人増)に届かず、前月の修正値20.4万人増から伸びが鈍化した。3カ月平均の増加幅でも前月の18.2万人から16.5万人に減速した。なお、2016年は通年で225.9万人の雇用が創出されたが、前年の274.4万人を50万人近く下回っており、今年に入り雇用の拡大ペースが鈍った事がわかる。

②12月失業率は市場予想どおりに前月から0.1ポイント上昇した。もともと、前月の4.6%は2007年8月以来の低水準であった事や、労働参率が62.8%に上昇した(労働力人口の増加が窺える)事から、悪化したとの印象は薄い。なお、広義の失業率である不完全雇用率(U6失業率)は、前月からさらに0.1ポイント改善して2008年4月以来の低水準となる9.2%に低下している。



③12月平均時給は、前月比、前年比ともに市場予想(0.3%増、2.8%増)を上回る伸びを見せた。前月は予想外の減少(前月比0.1%減)となっただけに、注目が集まっていたが、増加基調に変化はない事が確認できた。なお、前年比2.9%の伸び率は、2009年6月以来、7年半ぶりの高さであった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

この米12月雇用統計に対して市場は、ドル高・債券安(長期金利上昇)・株高というポジティブな反応を示した。非農業部門雇用者数の減速については、失業率が「完全雇用」に近いと考えられる水準まで低下する中であって悪材料視される事はなかった。失業者が減少する中では雇用者数が伸びないのは当然との受け止め方が主流のようだ。そうした中で平均時給が予想以上に伸びた点は、人手不足による賃金上昇の兆候と見る事もできる。トランプ次期米大統領の経済政策への期待感と相まって米国景気は堅調を維持していると言って良いだろう。市場は今のところ、米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げは6月以降(短期金利先物市場の織り込み度合いより)と見ているが、もし次回1月雇用統計で平均時給の伸びが加速すれば、3月利上げ観測が急浮上する可能性もありそうだ。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com